

## 第 11 回日本肝がん分子標的治療研究会の開催にあたりまして

第 11 回日本肝がん分子標的治療研究会—分子標的治療・今後の展開に期待して—  
(平成 27 年 1 月 31 日：東京・海運クラブ) を開催させていただくにあたり、ご挨拶を申し上げます。

本会は肝癌に対する初の分子標的治療薬 Sorafenib が臨床の場に導入され、治療の場が変わると期待された 2010 年 1 月に第 1 回が開催されました。その後年 2 回の会を重ね 5 年を経過した現在、肝癌では世界で最も多い 23700 例に本剤が投与されています。この間、得られた知見は多々ありますが、未だに効果判定、予後予測、投与開始時期、終了の時期、進行肝癌に対する Sorafenib の位置づけなど、明確な結論が得られていない現状です。

そこで今回は、TACE 不応の定義により肝癌治療はどう変わったか、STORM 試験の結果を踏まえた再発に対する治療戦略、CR / PR 例の解析、などを課題とし、また 1st line、2nd line の薬剤が続かない中で肝細胞癌臨床試験の打開策を探るなど、今後の展開を考える機会に致したいと存じます。教育講演は Prof. J Zucman-Rossi の Molecular classification of HCC で世界の趨勢を知りたいと思います。

1 月の寒い東京を本研究会で盛り上げていただきたく、皆様の多数の演題応募と活発な討論を期待致しております。

平成 26 年 10 月吉日

第 11 回当番世話人 齋藤明子  
東京女子医科大学消化器病センター消化器内科